

## はじめに

2020年以降、我が国の教育・学習を取り巻く環境は大きく変化しました。新型コロナウイルス感染症の拡大は、人と人が集う学びの在り方を見直す契機となり、オンライン学習やデジタル技術を活用した新たな学習形態が急速に広がりました。こうした中、国においては、GIGAスクール構想の推進や、デジタル人材の育成、リカレント教育の充実などを通じて、誰もが学び直しに取り組める環境整備が進められています。これらは、学校教育のみならず、生涯学習全体の質的転換を促す重要な動きであるといえます。

岡山県教育委員会においても、「岡山県教育振興基本計画」をはじめとする各種施策のもと、地域と連携した学習機会の創出や、デジタル技術を活用した学びの充実、多様な主体が参画する学習環境の構築に取り組んできました。少子高齢化の進行や地域コミュニティの変容が進む中で、生涯学習は、個人の生きがいや自己実現を支えるだけでなく、地域課題の解決や持続可能な地域づくりを支える基盤として、ますます重要性を増しています。

そのため、本県では、県民一人ひとりが生涯にわたり主体的に学び続け、その成果を地域や社会に生かしていくことを目指し、生涯学習の推進に取り組んでいるところです。

今回の「生涯学習に関する意識調査」は、県民の皆様の学習に対する意識や実態、課題を的確に把握し、今後の施策の充実につなげることを目的として実施したものです。

調査結果からは、学びへの関心の高まりとともに、時間的制約や情報不足など、学習参加を阻む課題も明らかになりました。これらの声を真摯に受け止め、岡山県生涯学習センターとして、誰一人取り残されることのない学習環境の整備に努めてまいります。また、学習成果が地域や社会に還元され、県民同士がつながり合う好循環を生み出せるよう、関係機関・団体との連携を一層強化していきたいと考えています。

最後に、調査結果の考察等に御尽力いただいた岡山大学大学院教育学研究科 副研究科長 教授 熊谷慎之輔様をはじめ、本調査に御協力いただいた多くの皆様に心より感謝申し上げますとともに、本報告書が、県民の皆様、関係者の方々にとって、生涯学習の意義を改めて考え、今後の取組を進める上での一助となることを願っています。

令和8年2月

岡山県生涯学習センター所長  
栗原 宏之

## 目次

|  |     |
|--|-----|
| I 調査概要                                       | 1   |
| 1 調査目的                                       |     |
| 2 調査地域                                       |     |
| 3 調査対象                                       |     |
| 4 調査方法                                       |     |
| 5 回収結果                                       |     |
| 6 特記事項                                       |     |
| II 属性について（性別・年齢・職業・居住地について）                  | 3   |
| III 調査結果                                     | 5   |
| 1 学習の必要性について                                 | 5   |
| 2 過去の学習について                                  | 9   |
| 3 自主的な学習について                                 | 31  |
| 4 公民館について                                    | 46  |
| 5 地域とのつながりについて                               | 59  |
| 6 これからの学習について                                | 77  |
| IV 考察  | 97  |
| 1 本調査研究における3つの視点～現在・過去・未来～                   | 97  |
| 2 学習経験のふくらみ～公民館の利用と地域活動への参加～                 | 98  |
| 3 学習経験のちぢみと無関心層への支援<br>～公民館を利用したことがない人々への注目～ | 98  |
| （岡山大学大学院 教育学研究科 副研究科長 教授 熊谷 慎之輔）             |     |
| V 資料   | 100 |
| ○ 調査票  | 100 |